

資料提供(投げ込み) 令和5年2月3日(金)	
場所 津市政記者室	
事務担当課	
所 属	職・氏 名
教育委員会事務局生涯学習課 (電話059-229-3251)	生涯学習課長 松尾 篤

一志町小山地区内での遺跡（小鳥山中世墓）の発見について

令和4年1月上旬、一志町小山地内の山中で新たに遺跡（小鳥山中世墓）が発見されました。

当該遺跡については、一志東小学校の児童2名によって偶然発見され、その通報により、同年6月に津市教育委員会が主体となって発掘調査を行いました。

その結果、渥美半島産の壺、和鏡2面・鉄刀1振のほか土師器皿等が出土し、出土遺物から判断して12世紀代の中世墓であると判明しました。

その詳細については、別紙のとおりです。

小鳥山中世墓の発見と発掘調査について

1 発見から報告、発掘に至る経緯

発見者は、地元に住む児童2人（兄弟）です。

いとうこたろう
伊藤瑚太郎（一志東小学校6年生）

いとうてんご
伊藤展梧（同 3年生）

発見者は、日頃から自宅周囲の丘陵で自然探索を行っていたところ、1月上旬に尾根の少し高まった所に石積みを見つけ、興味をもってこれを除けると壺を発見し、近くの石の直下では和鏡を見つけました。同行していた大人の適切な判断もあってそのまま埋め戻し、後日、三重県埋蔵文化財センター職員に発見の連絡をしました。

その後、当該県職員から報告を受けた津市教育委員会生涯学習課は、報告時の写真等から出土遺物の中には銅鏡（和鏡）や鉄製品のほか中世期の壺が含まれることを確認し、これらは中世墓とそれに伴う副葬品と判断しました。そして、これらの遺物（特に金属製品）の劣化が進むことを憂慮し、それらを埋蔵文化財として適切に確保して、保存・継承につなげるため、所定の手続きを経て発掘調査を行うこととしました。

調査は、津市教育委員会が主体となる学術調査として6月18日に実施しました。

調査にあたっては、土地所有者である小山区に当該地発掘の承諾と出土遺物を文化財として取り扱うことの同意を頂くなど、地元の皆様の御理解のもとで進めることができました。



発掘調査地と周辺地形図

2 小鳥山中世墓の概要と出土遺物

【中世墓1】

集石の下から渥美産の四耳壺が発見され、壺のほかに銅鏡1面（和鏡①）と鉄刀一振、土師器が見つかりました。壺の外面には特徴的な凹線とへら描き文様があります。

和鏡①は、「菊花双鳥鏡」で、鈕の周囲に菊花と鳥の文様が鋳出されています。鏡とともに出土した鉄刀は曲がっており、人為的に曲げられて埋納されたと考えられます。

【中世墓2】

中世墓1から約5m東側で集石の下から銅鏡1面（和鏡②）が発見されました。

和鏡②は①に比べて薄く萩の花と鳥が鋳出された「萩双鳥鏡」です。



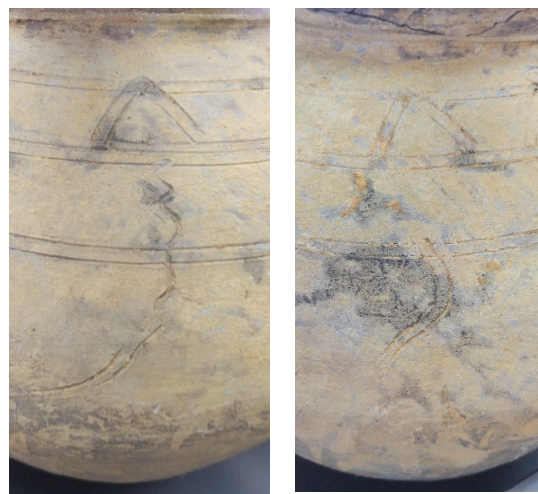
渥美産四耳壺（高さ：38.8cm）



和鏡① 菊花双鳥鏡（直径：12.1cm・重さ：180g）



和鏡② 萩双鳥鏡（直径：10.4cm・重さ：80g）



壺の表面に刻まれた凹線とへら描き文様

【まとめ】

今回の発見は、不時発見（予想されていなかった埋蔵文化財が発見されること）によって貴重な文化財が散逸することなく守られた稀有なケースです。

また、出土遺物は12世紀の当該地域の中世墓の様相を示す好事例で、和鏡2面は貴重な資料となりました。

今後、正式な報告に向けての資料分析を行い、当該地域の歴史解明の一助となるよう、その保存と活用につなげていく予定です。



鉄刀（全長：約40cm）